

編集後記

インフォメーションテクノロジーセンター副所長

環境都市工学部 教授 岡田 芳樹

IT センター関連の会議や私が所属します環境都市工学部の教授会では、紙資料の配布は無く、すでにペーパーレス化されています。紙を使っていた頃のように、会議の後、資料の保管や処分に困らないことは、ペーパーレスのありがたい点であります。また、所属する各種学会の学会発表予稿集なども昔はその冊子体が重たくて、学会から帰る時に苦勞していたことを思い浮かべます。

ペーパーレス化、データ化の利点をざっと列挙しますと、紙、印刷のコストがかからない、印刷するための時間が不要、保存場所に困らない、持ち運びが容易、検索が容易、拡大縮小しながら見ることが可能などの点が挙げられます。

しかし、今でも紙印刷をやめられない状況も私はあります。例えば、学術論文を読む時、紙に印刷して論文を読む習慣が今でも続いています。論文中に示されている図表を見ながら本文を読む時、特に図表と本文の記載ページが異なる中で図表と本文の間で視線を移動させながら読む場合など、紙上では非常にスムーズに読み進めることが可能です。しかし、PC 画面上では、どうしてもスムーズにできません。また、私が授業で学生に配る資料もデータではなく、いまだ紙です。それは、紙だとその場ですぐに学生がコメントなどを資料に書き込めるからです。学生が、資料の重要箇所にアンダーラインや印を入れること、自分の言葉でコメントを入れることは、内容理解や後の振り返り学習に対して非常に重要であります。それができない PC では、学習記憶が残らないこととなります。学生が資料へコメント等を記入することを可能にするためには、ペン入力ができる PC が絶対不可欠であると言えます。ペン入力が可能な PC を学生全員が持参しなければならない制約があると考えます。

ペーパーレス化が良い場合とそうでない場合があります。後者に対しては、ペーパーレスの問題点を十分に理解し、その解決法を確立したもとの、ペーパーレス化に移行する必要があると考えます。

最後に、ご多忙にもかかわらず本年報に報告記事をご投稿いただいた先生方および職員の方々に深く感謝しますことを記します。本年報の記事には、経済学、英語学、工学とそれぞれ異なった分野からの計算機利用に関する内容が含まれており、今後の発展が非常に重要視されていることから、本報告は非常に興味深いものとなっております。本年報が、本学や学外の皆様方の教育や研究にお役に立ちますことを期待しております。そして、本学 IT センターに対して今後も引き続き、皆様からご支援、ご協力を頂けますように宜しくお願い申し上げます。